

わたしは戦後生まれで、六十代も終盤にさしかかった。歴史学研究を志してから半世紀が経過した。この間、庄園や地名、交通、差別など地道な研究を継続してきたつもりだが、最近では学界の定説を疑問視すること、通説を実証的に否定していくことが自分の使命ではないか、と思うようになった。研究史の継承とはいうけれど、まわりには無批判で無責任な孫引きがとて多かった。これが学問なのか。どう考えても不自然なことが拡散され続け、教科書にも平然と書かれている。

わたしたち戦後世代は団塊の世代とか、ビートルズ世代とか、全共闘世代とかいわれてきた。全共闘世代といっても、当時の大学進学者は一〇パーセント台だったろうし、反社会的で未熟な戦術をくりかえす全共闘を支持する人は、学生のなかで一割もいただろうか。一〇〇分の一か二の存在が、世代を代表するはずはないが、激しい時代だったが故に、そう呼ばれたのだろう。

全共闘は「ラディカルな問いかけ」ということをよくいった。根源的な疑問、問いかけが必要だという意味だと理解している。命題・批判・止揚がくりかえされなければ、社会も学問も進歩はない。科学全体が進展しているのに、検証なき通説・不動の定説など、あるはずはなからう。だが通説に多数派を批判すれば、たちまち一人となる。

「連帯を求めて孤立を恐れず」

正しければ、必ず多くの読者が味方になってくれる。

わたしの恩師は故・石井進先生である。蒙古襲来や、絵詞の研究論文・著書がいくつもある大先輩でもあった。「先生、いま蒙古襲来を勉強しています」。そう報告したら「へえ、こわいなあ」といわれた。

わたしは二〇〇三年に「文永十一年・冬の嵐」（『歴史を読み解く』所収）を最初の蒙古襲来研究として発表した。先生の急逝後、二年が経過していた。文永の役の考察で、従来の研究が情報伝達の時間を忘却して立論していることがわかった。本来ならば続けて弘安の役まで研究しなければならなかったのに、一〇年ほど止まってしまった。日本、中国そして高麗（朝鮮・韓国）側の文献研究にまで、まったく知らない分野に手を伸ばさなければならぬ。これまでも長い研究史があって、多数の研究者が言及している。いままら研究してみても新しいことはみつけれないだろう。当時の気持ちはそのようなものだった。つくづくメインドコントロールされていたと自覚する。挑戦する意欲が欠けていて、孫引き学問を見抜けなかった。

あらためて不断に問いかけよう。なおも不十分な点はあろうが、わたしは渾身の力を注いでこの本を書いたつもりである。

最後になったが、本書の前提に『蒙古襲来』（山川出版社、二〇一四年）、「竹崎季長が絵解きする『蒙古襲来絵詞』」（『歴史を歩く』時代を歩く）（九州大学服部英雄研究室、二〇一五年所収）がある。本書はこれらをつまえているが、新機軸として絵詞の記述に従って、二つの合戦を順に時間を追って説明した。『蒙古襲来』は大部の作品であったから、本書では筋書きを重視した。新書として、平易な記述を意識はしたが、うまくいったらうか。執筆時、気づかなかったことがいくつもあった。絵詞の読みでは、敵兵の目的の中した矢が季長の矢であることは、『蒙古襲来』の校正終了直後に気づいたため、旧著にほとんど反映できなかった。弘安暴風後に肥前鷹島から生の松原にやってきた使者の言葉と、その後の作戦展開については、具体的な説明を欠いたため、定説擁護者が古典的解釈に依拠することを許していた。これも本書ではいいねいに説明できた。大般若経奥書にみる在日蒙古被虜人の富裕化や、竹崎季長の出自を肥後国ではなく長門国竹崎とした点は、本書が初めての言及になる。したがって一部では前著と異なる見解も生じている。本書の新視点は当然旧著『蒙古襲来』の問い意識の延長上に位置するけれど、新規の論点に関しては本書を著者の見解とさせていたきたい。

服部英雄

丁酉八朔
清流水前寺川を窓外に
くまもと文学歴史館・館長室にて

服部英雄（はっとり・ひでお）

1949年（昭和24年）、名古屋市に生まれる。東京大学文学部国史学科卒業。同大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。東京大学文学部助手、文化庁文化財保護部記念物課調査官、九州大学大学院比較社会文化研究院教授などを歴任。現在、くまもと文学・歴史館館長。九州大学名誉教授。『景観にさぐる中世』（新人物往来社）で角川源義賞、『河原ノ者・非人・秀吉』（山川出版社）で毎日出版文化賞を受賞。他にも『蒙古襲来』（山川出版社）など著書多数。

2017年11月25日発行

蒙古襲来と神風
中公新書 2461

著者 服部英雄
発行者 大橋善光

本文印刷 三晃印刷
カバー印刷 大熊整美堂
製本 小泉製本

発行所 中央公論新社
〒100-8152
東京都千代田区大手町 1-7-1
電話 販売 03-5299-1730
編集 03-5299-1830
URL <http://www.chuko.co.jp/>

定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

本書の無断複製（コピー）は著作権法上での例外を除き禁じられています。また、代行業者等に依頼してスクリーンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用を目的とする場合でも著作権法違反です。

©2017 Hideo HATTORI
Published by CHUOKORON-SHINSHA, INC.
Printed in Japan ISBN978-4-12-102461-9 C1221